浜中町立茶内小学校「学校だより」

THE　茶内小　TIMES

令和５年（2023年）２月13日発行　VOL 46

言語環境の充実と学力

浜中町立茶内小学校長　冨　田　直　樹

毎週水曜日に、絵本の読み聞かせボランティアの皆さんが本校を訪問してくれています。８時から約20分間、第１学年から第４学年の教室に分かれて、子どもたちに絵本等を読み聞かせてくれています。朝の職員打合せが終わり、各教室を覗いてみると、笑顔であったり、時には顔をこわばらせたりするなど、表情豊かに聞き入っている子どもたちの姿を見ることができます。中には前のめりになったり、歓声を上げながら聞いている子どもも見られます。私も子どもと一緒に聞き入っていますが、そのときに改めて感じるのは、日本語ほど繊細で、美しく、豊かな表現を蓄えた言葉はないのではないかということです。そんな日本語が、絵本の文章とボランティアの皆さんの声を通して、シャワーとなって子どもたちに注がれていきます。この上ない最高の言語環境です。

ところで、保護者や地域の皆さんは、家庭環境と学力の相関を調査した文部科学省の調査研究（2013年度全国学力・学習状況調査の追加調査）を御存知でしょうか。この調査は、文科省が例年実施している全国学力・学習状況調査に際して、保護者の社会的背景と学力の関係とを国立大学（お茶の水女子大学）の研究グループに委託して実施した全国規模の調査で、2013年度に初めて実施され、その後、2017年度、2021年度にも実施されています。

家庭所得、保護者の学歴を合成し「家庭の社会経済的背景（Socio-Economic-Status、略してSES)」という指標をセットして、学力調査結果との相関を調べています。その結果、次のようなことが報告されています。

①SESの指標が高い方が各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
②学校外教育支出（学習塾など）が多いほど、学力が高い傾向が見られる。
③SESの指標が高いほど保護者が子どもに積極的に関わっている。具体的には、定刻の起床・就寝、朝食の摂取、本や新聞を読む、特に家庭における読書活動、親子で行う文化活動などが学力にも強い影響力を及ぼす。

③に注目してみると、読書活動などの言語環境が学力に影響していることが学術研究によって裏付けられたと言ってもよいのではないでしょうか。幼少期における絵本の読み聞かせや伝記などの読書体験に加え、各種図鑑や百科事典があったり、新聞が日常の話題になったりする家庭は恵まれた言語環境であることが想像できます。

この調査でより重要と考えられることは、SESの指標が低くても高い学力水準に位置する子どもの特徴が分析されていることです。そんな子どもたちの保護者は、定刻の起床・就寝、身の回りのことは自分でするするよう自立させること、知的好奇心を高める働き掛けを行っていること、そして、絵本の読み聞かせや親子そろって図書館に通うなど、文字に親しむように促していることなどの特徴がありました。

本校の絵本の読み聞かせの様子を御覧になりませんか。家庭における言語環境を更に充実させるヒントになると思います。